

# 歴史教育者協議会 第71回埼玉大会 障がい児教育分科会・共同研究

「障がいのある子どもの『社会認識』を育てるために」



於：第70回京都大会・分科会（同志社中・高等学校）2018年8月  
ーゲストに光明学校の学童疎開体験者の今西美奈子さんを招いてー

報告日 : 2019年8月4日～5日  
報告場所 : 独協大学（埼玉県草加市）  
報告者 : 土田謙次（埼玉県歴史教育者協議会）  
共同研究者 : 小林幸雄（埼玉県歴史教育者協議会）  
竹下忠彦（東京都歴史教育者協議会）

# 「障がいのある子どもの『社会認識』を育てるために」

## 目 次

---

### I. 「障がい児教育分科会」の経過と共同研究提案について (P. 3～P. 5)

### II. 障がいのある子どもにとっての『社会認識』とは何かを理論化する試み

#### 1. このレポートをまとめた動機

－「障がい児教育分科会」の共同研究へと発展した経過－ (P. 6～P. 7)

#### 2.

2-① 障がいのある子どもにとっての「社会認識」とは何か? (概念図) (P. 8)

2-② 時系列の図 (P. 9)

3. 遠山 <sup>ひらく</sup> 啓氏らの「原数学」に対応した「原社会科」の概念案 (P. 10)

### III. 「社会認識」を育てるステップと具体的方法を、多くの授業実践レポートより整理する試み

#### 1. 「社会認識」を育てるステップ & 具体的方法 (素案) (P. 11～P. 13)

1-① 特別支援教育における「社会認識」を育てるステップ

1-② 「社会認識」を育てる方法 (1) 具体的テーマ

(2) 具体的方法

(3) レポート一覧

(4) 指導上の留意点

#### 2. 「社会認識」を育てる具体的な授業実践レポートの例 (P. 14～P. 17)

2-① 「前社会科」段階＝「自己認識」「他者認識」 A 三重・田畑美代子実践

2-② 「社会力」を身につける学習 A 千葉・関根千春実践

B 宮城・高橋 誠実践

2-③ 「地域学習」 A 東京・竹下忠彦実践

B 三重・田畑美代子実践

### IV. 「障がい児教育分科会」の最近10年間の授業実践レポートと

歴史地理教育に載ったレポート一覧 (P. 18～)

(IV-1. 大会年順 : p18、IV-2. テーマ別 : p19、IV-3 校種別 : p20)

---

## I. 「障がい児教育分科会」の経過と共同研究提案について

共同研究 埼玉歴教協  
東京歴教協

土田謙次、小林幸雄  
竹下忠彦

### I-1. はじめに 1973年から2004年までの経過概要

「障がい児教育分科会」が発足したのは1973年の愛媛大会から、55年の歴史がある。この「障がい児教育分科会」の討議の経過については、(1) **83年熊本大会から87年岡山大会まで**の5年間の成果と課題を「分科会の成果と課題」(1988年8月・歴史教師者協議会大会実行委員会発行・冊子)において茨城の中島義夫が、(2) **88年東京大会から97年宮城大会まで**の10年間の成果と課題を「実践の積み重ねに支えられて」と題して埼玉の保阪和雄が歴史地理教育1998年7月臨時増刊号「大会の歩みと社会科教育の創造」にまとめている。(3) その後**95年沖縄大会から04年山形大会まで**の10年間に関しては、宮城の高橋誠が2004年に「障害児教育と社会科」と題して、「歴史教育・社会科教育年報2004年版」にまとめている。

高橋は(3)の中で、1973年以降についても、各年次の大会報告集から「障害児の社会認識」にかかわる代表的な議論を書き出す形で、その経過に触れている。

詳しくはそれぞれの記述に譲るが、(2)から少し抜粋すると、「障がい児教育分科会」がスタートした73年愛媛大会には40名が参加し「障害児の社会認識をどう育てるか」という柱を立てて実践が討議されたという。その中で分科会設置の必要性について論議があったが、「社会認識を正しく教えるステップを組み立てる役割がある」ということで継続されたという。

しかし分科会発足から15年も経つと、参加者は下降線をたどり、10名から15名、少ない年は一桁と低迷し、報告者と世話人の確保に苦勞する時代を迎えた。当時は茨城の中島義夫が実質一人で世話人を担っていた。そしてこの15年間は存続に苦悩しつつも、歴教協に何かを求めてきたが、障害児を取り巻く諸条件の差異に戸惑い、討論もすれ違いを生みやすかった。しかし89年大阪大会からは保阪和雄が世話人を担うようになった。その後の10年は、前の15年の影響を受けつつも、何を学び、何を語り合うのかが鮮明にされてきている。その後は山下洋児(東京)、高橋 誠、そして小林幸雄(埼玉)、田畑美代子(三重)、竹下忠彦(東京)がその任を引き継いでいる。

99年奈良大会以降の「障がい児教育分科会」は、討論の柱を次のように明確に打ち出している。I、障害児教育における社会科の授業実践、II、障害児・者が地域でどのように生きていくのか、の2つである。

「歴史教育・社会科教育年報2004年版」の「障害児教育と社会科」において、高橋誠は、この2つの柱を立てて分科会で議論してきたことの妥当性を検討している。そして、Iの柱については、教材として具体的にどのような内容を取り上げたらいいのかとともに、障がい児の社会認識を育てるために、人や物との関わり、時間的空間的認識をどう育てたらいいのかを議論され、『集団としての学びの大切さ』が確認されたこと。また、IIの柱については、『Iの柱を支えるものとして重要な意味をもつこと』。障がい児の社会科実践を報告している教師は、『いずれも教室だけの実践にとどまらず、学年経営、教師集団の合意形成、地域づくり、教職員組合運動、民教研活動の先頭に立ち日々奮闘している。』、IIの柱がIの柱を支えていると指摘している。

## I-2. 2005年から2008年までの経過

この4年間は、上記2つの柱で、毎年3～4本の少数ではあるが、内容の濃いレポートを中心に討論が行われた。その主な内容をあげると、Iの柱では、以下のようなものである。「空間認識」に絞って社会認識の発達過程を理論的に追及したり、「学校探検」→「地図の読み取り」→「地域調べ」へと発展させた取り組み。そして中学校の障がい児学級での社会認識を育てる実践が継続的に報告された。具体的には「調理学習」や「生徒総会への参加の取り組み」そして「クラス合宿」を通じた実践も。また、経験の乏しい特別支援学校高等部の生徒に対して韓国の高中生や韓国語の教師との交流を通して生徒が成長していった様子も継続的に報告された。

そしてIIの柱では、以下のようなものである。Iの柱と重なるが、障がい児・者が地域の中で主体的に生きていくためには、普通学級・普通学校での障がい児との共同学習や交流を行うことで、障がい児への理解を深めること。また、学校外の地域での、健常児とその保護者やボランティア団体をも巻き込んだ交流、障がい者の地域支援の実践等が報告された。

これらのレポートをめぐる討議の中で確認されたのが、「積み重ねの指導が大切である」「障がい児の経験や理解力の不足を、教材・題材の工夫でどうカバーしていくか」「生活年齢にあった内容の大切さ」「社会認識の学習は、教科、教科外、特別活動等あらゆる場面で追及すること」「個別支援が重視される特別支援教育の中にあっても、学習集団の中でこそ生徒が成長すること」「具体的な事象や人々との出会いを通じた学習が大切であること」「障がい児・者が孤立しないように、本人を『社会に働きかけ、社会を変えていく力（社会力）』を持つ主権者に成長させていくことの大切さ」などである。

最後に行われた「全国の特別支援教育をめぐる状況の報告・討議」では、「東京都の都立障がい児学校での「つくる会教科書」の採択強行の問題、自立支援法が本格実施された場合の地域の障がい児・者への影響、教育基本法改悪の問題、東京都では都立七生養護学校事件に象徴される教育内容への露骨な介入が行われていること、などが話題となった。

## I-3. 2009年から2018年までの経過

09年から19年までのレポートについては、別紙「レポート一覧」を参照されたい。そしてその議論の中で深まってきたことは、それぞれの柱を掘り下げていったことはもちろん、IとIIの柱もそれぞれ個別に独立したのではなく、Iの社会認識を深めるためには、IIの地域に関連した取り組みが必要であり、IIの取り組みを深めていくためには、Iの社会認識が必要であるという相互の関連性が改めて確認されたことである。またこの10年間は、参加人数やレポート数の増減はあったものの、4人の世話人を中心に常時参加のメンバーに、時々あるいは1回参加のメンバーを加えて、安定した分科会運営ができた時期といえる。その中で特徴的な事柄を上げると以下のようなものである。

- ① 2011年の福岡大会の討議の中で、今までのI・IIの2つの柱に「障害児の社会認識」「障害児・者の歴史を考える」「文学における障害者」といった内容を、次回から加えてほしいという要望が出された。そして世話人会で検討した結果、12年の千葉大会からは次の4つの柱を立てて討議が行われるようになった。I、障害児の社会認識や主権者意識をどう育てるか。II、地域でどう生きていくか。III、障害児者の歴史・文学、IV、特別支援教育をめぐる全国の状況。なお、IVについてはレポート討議ではなく、参加者による状況の報告という形で行われている。
- ② 12年千葉大会では、東京の竹下忠彦のレポートの中で、身体障害者の文芸雑誌「しのめ」の主宰者花田春兆氏にインタビューする、15年の宮城大会では、高橋誠の「東日本大震災

と障がい児・者の状況」のレポートの中で、実際に被害に合われた知的障害の方と施設長さんから当事者として発言していただくなど、レポート討議だけでなく、ゲストを招いての勉強会も行われるようになっていく。

- ③ 同様に、16年の沖縄大会から、障がい児教育分科会独自の「現地見学」を時々行っている。ちなみに沖縄大会では元中学校の社会科教員が、沖縄戦を中心にした沖縄の歴史や文化について、戦争体験も交えながら解説を加え案内してくれた。18年京都大会では、元京都盲学校教員の案内で、全国の視覚障害教育の先駆けである京都の、盲教育発祥の地等の見学を行い、その発展の足跡をたどることができた。
- ④ 宮城の高橋誠の「東日本大震災と障がい児・者の状況」（12年から15年までの4回シリーズ）、埼玉の土田謙次の「障がい児の社会認識を育てる授業を整理する試み」（16年から18年まで3回続いてなお継続している）など、一つのテーマを継続して追跡し、深める試みも出てきた。
- ⑤ 15年宮城大会あたりから、時代の趨勢もあり、高校の教員からも、学校にいる発達障害の生徒の指導に関するレポートが出るようになってきた。同様に学童保育の指導員の参加、レポート討議も登場してきた。
- ⑥ この10年間の議論の成果として、「子どもが主体的に学べる場・集団・内容を保障すること」の重要性と「学ぶ場は、障がい児学校、障がい児学級、普通学級から選択できるのが望ましく、肝心なのはその子どもにふさわしい場と集団と内容が保障されていること」という2点を確認された。

#### I-4. 提案（21分科会共同研究）「障がいのある子どもの『社会認識』を育てるために」

このような経過を踏まえ、今次埼玉大会の本分科会において、私たちは、（21分科会共同研究）「障がいのある子どもの『社会認識』を育てるために」を提案する。

2004年、高橋誠が“\*Ⅰの柱については、教材として具体的にどのような内容を取り上げたいのかとともに、障がい児の社会認識を育てるために、人や物との関わり、時間的空間的認識をどう育てたいのかを議論され、『集団としての学びの大切さ』が確認されたこと。また、\*Ⅱの柱については、『Ⅰの柱を支えるものとして重要な意味をもつこと』。障がい児の社会科実践を報告している教師は、『いずれも教室だけの実践にとどまらず、学年経営、教師集団の合意形成、地域づくり、教職員組合運動、民教研活動の先頭に立ち日々奮闘している。』、Ⅱの柱がⅠの柱を支えている”と指摘したが、その後、私たち21分科会ではその指摘を受けて2018年まで分科会でのレポート論議を積み重ねてきた。

このような流れの中、土田謙次は、「特別支援学校での『社会認識を育てる授業実践』を振り返る（1）」（2016・沖縄大会）、「特別支援学校での『社会認識を育てる授業実践』を振り返る（2）」（2017・神奈川大会）、「特別支援学校での『社会認識を育てる授業実践』を振り返る（3）」（2018・京都大会）と三年連続で21分科会の議論を整理し、「理論化」を試みる報告を行った。

この報告を受け、京都大会の終了後、土田謙次（埼玉）、小林幸雄（埼玉）、竹下忠彦（東京）の3名の21分科会の世話人が集まり、さらに内容を練り上げた。検討会は、2018年9月、11月、2019年2月、5月、7月の5回に及んだ。

その結果を以下、土田謙次が報告する。

\*当時の2つの柱とは、\*Ⅰ、障害児教育における社会科の授業実践、\*Ⅱ、障害児・者が地域でどのように生きていくのかである。

## Ⅱ. 障がいのある子どもにとっての『社会認識』とは何かを理論化する試み

### Ⅱ－1. この共同研究をまとめた動機

#### - 「障がい児教育分科会」の共同研究へと発展した経過-

特別支援学校では、盲・ろう・病弱校や肢体不自由校の一般学級、知的障害校高等部の学力の高い生徒達のグループを除いては、「社会科」という教科は教育課程の中に位置づけられていないことが多い。またその理由として能力的に理解が難しい、必要がない等と言われる。

それに対して、埼玉県川口市立鳩ヶ谷中学校の障がい児学級担任だった小林幸雄は2011年の歴教協福岡大会のレポートで、「障害者の教育に『社会科』を」と題して「…日本国憲法の人権・国民主権・平和を教育の基本におき、そこから社会認識の課題を教育課程に設定することが必至である…」と述べている。私たち（土田・竹下）も、特別支援学校において、**どんなに重い障害を持っている子どもでも、それ（社会科＝社会認識の教育）は必要である**と考えて、実践してきた。その理由を、下のA、Bという「社会科不要論」への反論として述べる。

A…障がいのある子どもたちには「社会科」は難しいしわからないから、教える必要はない。

B…それよりも「ことば・かず」を沢山教えた方がいい。

#### Bの「ことば・かずで十分論」への反論

障がいのあるAさんが幸せに生きていく力は、認識面では①自己認識②他者認識を土台として、③社会認識④自然認識という4つの認識が必要となる。「Ⅱ－2」の概念図参照。

\*このことは「学習指導要領」にも書いてある！→「Ⅱ－2」の概念図の左下の□内参照。

そして、この4つの認識の深化を助けるものが「ことば・かずの力」「コミュニケーションの力」などであると思われる。だから言い換えると「ことば・かずの力」「コミュニケーションの力」等をつけるのも、それが自己目的ではなく、4つの認識を助けるためなのだ。

こういふと、障がいの重い子は「自己認識」「他者認識」さえできればいいのであり、それ以上の「社会認識」は必要ないと言われそうだが、「Ⅱ－2」の「障がいのある子どもの社会認識の概念図」にもあるように「社会認識」「自然認識」は「自己認識」「他者認識」を土台としつつも、必ずしもそれらができないと発達しないというものではなく、別個の発達を遂げるものと考えられる。

#### Aの「難しいので、必要ない論」への反論

また障がいのあるAさんが幸せに生きていくためには、「個人が存在する社会の中にあるルールや振る舞い方を身に着け」「自分らしく生きていくこと」(一松麻実子「人と関わる力を伸ばす」2007すずき出版より)つまり「社会に適應する力」=**社会性**を身につけることが大事だ。しかしそれだけではなく、さらに「よかれと思う社会を構想し、それを作り、運営し、その社会をさらに良いものに変えていく力。その下地としての「十全な他者認識や他者への共感能力」=**社会力** (門脇厚司「子どもの社会力」(2001岩波新書)より)が必要であると言われている。それは、言い換えると「主権者として社会を変えていく力」を身に付けることである。そしてこの2つの力を身につけるには、それぞれに応じた「社会認識」が必要である。(前出・小林2011レポート)

しかしまたここで「重い障がいのある子どもたちにそんなことできるわけがない」という声が聞こえてきそうだが、どんなに頭が良くても、自分のことしか考えられない人がいる一方で、重い障がいのある人でも「他者への共感能力」、つまりとても思いやりのある人がいることは、我々のよく知るところである。つまり「社会認識」とは、何も難しい理論だけを言うのではなく、自分のことを知ること(自己認識)、他人＝自分の周りの家族や友達や先生のことを知ること(他者認識)。そしてそれらの人たちとコミュニケーションを取り、仲良く一緒に勉強をしたり、作業をしたりすること。また時には喧嘩をしたり、何か問題が起こったら、それを解決しようと試

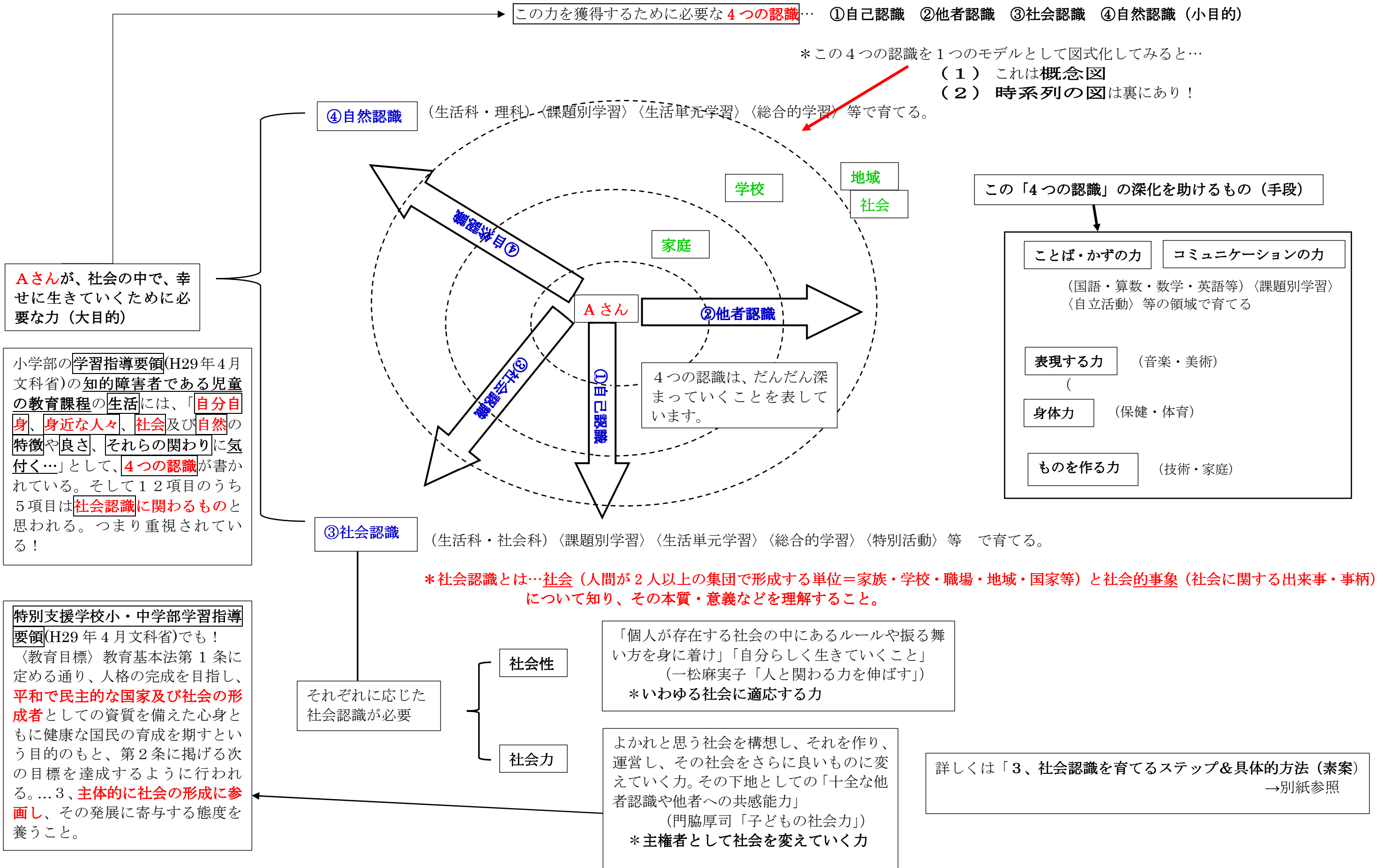
みること。そうした意欲や態度、能力こそが、「社会認識」の基礎となるものであり、よりよい社会を作っていこうという主権者の基本だということである。

だから私たちは、障がい児の教育に携わる人々に、ぜひ「Ⅲ－１」の「社会認識を育てるステップ & 具体的方法（素案）」を参考にしながら、「社会認識を育てる授業」を進めてほしいと考えるのである。

そしてそのためにも、私たちは埼玉歴教協の小林幸雄の「障害者の教育に『社会科』を」と題して「…日本国憲法の人権・国民主権・平和を教育の基本におき、そこから社会認識の課題を教育課程に設定することが必至である…」(2011年福岡大会レポートの提言)や宮城歴教協の高橋誠の「社会認識の教育」に関する提言(「歴史教育・社会科教育年報 2004年版より」)を基に、①その理論化を試みるとともに、②それを育てるステップを整理する ③「社会認識」を育てる授業実践(レポート)を整理する ことも並行して行ってきた。そして、その試みとして、2016年から19年の4年間に渡ってレポートを書き、「障がい児教育分科会」で議論してもらい、それを基に理論を修正していった。その成果がこの報告である。

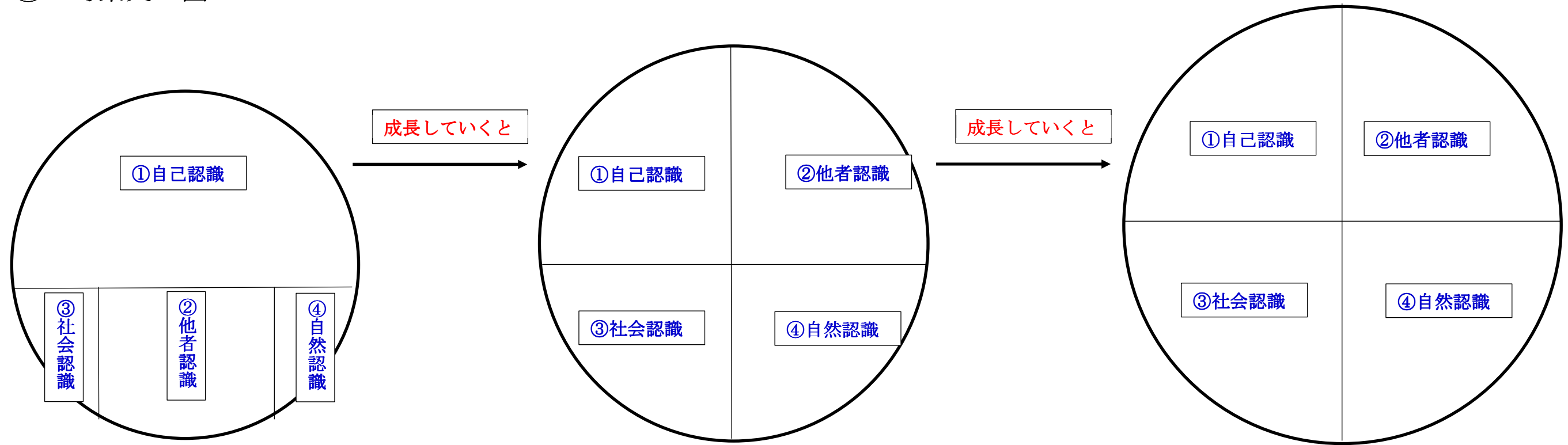
## Ⅱ - 2 - ① 障がいのある子どもにとっての「社会認識」とは何か？（概念図）

\* 2016年から2019年までの歴教協大会の「障がい児教育分科会」での議論を受けてまとめたもの





II - 2 - ② 時系列の図

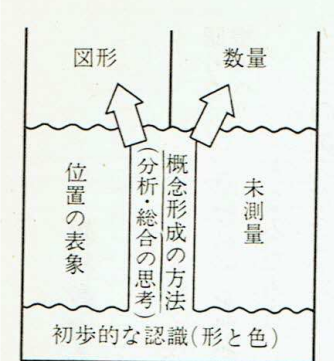
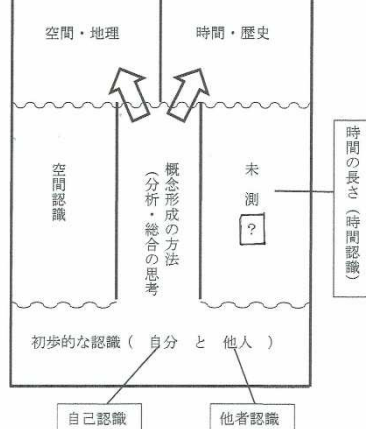


\*初め（幼少期）は、自己認識が大きく、ついで他者認識、そして社会認識・自然認識という順に成長すると思われる。  
それが、成長するに従って、だんだん社会認識・自然認識が大きくなり、大人になると、逆転すると考えられる。

## Ⅱ－３． 遠山 啓氏の「原数学」に対応した「原社会科」の概念案

「Ⅲ－１」の「社会認識を育てるステップ & 具体的方法（素案）」を作る時に参考になったのが、遠山 啓氏らの「原数学」の考え方（遠山 啓「歩きはじめの算数—ちえ遅れの子らの授業から」（2001 国土社））であり、それを社会科に当てはめた「原社会科」の考え方である（上記書 P.20）。遠山氏はこう述べている。「言うまでもなくちえ遅れの子どもといえども、一個の生物として生存を続けていることは事実である。そのためには、常に種々の量、長さ、重さ、速さ、…（未測量）などを把握し、それにもとづいて、行動を調整しながら生活しているはずである。だから、教育がしだいに下降して行って、最も根源的なものに到達し、ここを出発点として、再び上昇することができたなら、これまで教育不可能とされてきた障害児も教科教育が可能となるだろう。そのためには…従来の教科に対する固定観念を打ち破って、根源的なものに深く下降していく必要がある。例えばこれまで述べたいいくつかの指導法は、従来の数学という教科では行われたことのないものばかりである。このような分野を私は「原数学」と呼ぶことにしている。これを他教科にまで拡張すれば「原言語」「原音楽」「原造形」…ともいふべき分野が新しく開拓される必要があるだろう。そしてそれらを総称すれば「原教科」という分野が設定できよう。これは人間の精神活動の萌芽形態を探求するための最も興味深い分野となるだろう」

もちろん、「原数学」の考え方は、遠山氏らの長年にわたる実践と理論化の成果であり、「原社会科」の考え方は、まだその表面をまねた、言葉だけのものではあるが、これからの実践を踏まえて、理論化していけたらいいと考えている。

「原数学」	「原社会科」	備考
①「数量」の基礎にある「未測量」＝数値化しない段階の量（大きい・小さい、長い・短い、多い・少ないなど）（「歩きはじめの算数」P.41）	①「時間的・歴史的認識」の基礎にある「未測？」＝「対比」（新しい・古い、長い時間・短い時間など）。そのほかにも寒い・暑い？などもある？	例えば100年をどうとらえるか？（おじいちゃんのおじいちゃん等）
②「空間・図形」の基礎にある「位置の表象」＝平面空間における物の位置関係（ここ・あそこ、上・下、右・左など）（「歩きはじめの算数」P.43）	②「空間的・地理的認識」の基礎にある「位置の表象」に当たるもの+（上・下、右・左、南・北、東・西、遠い・近い、広い・狭いなど）	
③①と②の基礎にあるのが「分析・総合の思考」の力。 ・赤い丸→2つある属性のうち一つだけを分析・抽出すると「赤い」と「丸」 ・色と形と言う2つの属性を同時に考慮し、総合すると「赤い丸」 *これらのことがわかってくると、例えば「赤い丸」も「青い丸」も「丸」だということが分かってくる。	③①と②の基礎にあるのが「分析・総合の思考」の力。 ・昔の日本→2つある属性のうち一つだけを分析・抽出すると「昔の」と「日本」 ・「時間・歴史」と「空間・地理」と言う2つの属性を同時に考慮し、総合すると「昔の日本」	こうして考えてみると、数学と社会の科学としての「原教科」は、共通する部分も多いので、子どもに教える場合も、共通して教えられられると思われる。 →つまり「言葉」「数」だけでなく「科学」も加えて教えることが、4つの認識の学習につながるのではないか？
 <p>図3 3つの分野の関連 （「歩きはじめの算数」P.38）</p>		

### Ⅲ.社会認識を育てるステップと具体的方法を、多くの授業実践レポートより整理する試み

#### Ⅲ-1. **社会認識**を育てるステップ & 具体的方法 (素案)

##### Ⅲ-1-① 特別支援教育における「社会認識」を育てるステップ

通常学級における社会科の学習内容は、小学校1・2年生の生活科からスタートするが、障がいを持つ子どもたちにとっては、まず「自己認識」「他者認識」からスタートする。具体的には、自分に自信が持てる自己肯定感を育てることを前提に、自分のことに興味・関心を持つこと<sup>こ</sup>から始まり、自分のことを知ること、知ったこと・考えたことを表現しようとする<sup>ことへ</sup>と発展していく。そしてさらに、それが家族や友達のこと<sup>こ</sup>に広がっていく。この考え方の参考になるのが、「Ⅱ-3」の遠山 啓氏の「原数学」に対応した「原社会科」という概念である。

そして、それらを土台としつつも、同時に「社会認識」の学習も始まり、家族のこと、学級のこと、学校のことを認識する学習をしていく。そこには「自然認識」も入ってくる。

その中で、子どもたちは「社会性」を身につける。そして次に目指すべきステップは、「社会力」を身につけることだ。これは、自分が生きる集団・地域・国等の矛盾に気づく、問題点を発見する、それを解決していこうとする意欲と力をつける学習である。私たちは以上のステップをより細かく「系統的・段階的にこういう力をつけていく」といった一覧表を作ろうと努力したが、現段階ではそれはかなわなかった。今後の課題である。そこで次善の策として、以下のように「社会認識を育てる具体的な方法」を、私たちが「障がい児教育分科会」で持ち寄り、互いに学習してきたレポートの紹介をすることで示そうと試みた。

##### Ⅲ-1-② 社会認識を育てる具体的方法

☆は参照すべき、歴教協「障がい児教育分科会」の代表的レポート ★は参考文献

###### (1) 具体的なテーマ

###### ◎なぜ障がい児に社会科の授業が必要か？

☆「当たり前の教育－障害児学級で社会科を（パート1・2）」埼玉・小林幸雄 2003, 2004

###### ◎行事とその事前学習＝①校内、②校外（社会体験学習・社会科見学・修学旅行など）

☆「肢体不自由校高等部における買い物学習の取組み－重度障害児にとっての社会体験とは」東京・竹下忠彦 2014

###### ◎地理・空間認識

・地図に親しむ。・地図作り

☆「障害児教育における時間と空間の認識」宮城・高橋誠 1996

###### ◎歴史・時間認識

・自分や友達、家族の年表作り。

☆「黒曜石（加工体験）から縄文時代を考える」東京・山下洋児 1995

☆「サルと人間の食べ物の違い」東京・竹下忠彦 2002

###### ◎地域学習＝地域で色々な人と触れ合う体験をする。

☆「五感を使って地域と出会う」三重・田畑美代子 2015

###### ◎交流学習

☆「たいこと交流」埼玉・小林幸雄 2009

###### ◎平和学習

☆「ランドセルをしょったじぞうさん」をきっかけに戦争中の生活を考える」東京・山下洋児

1996

☆戦争をなくす方法を考えようと取り組んだ「当たり前教育－障害児学級で社会科を（パート1・2）」埼玉・小林幸雄 2003, 2004

### ◎自治活動

☆「特別支援学校での生徒会活動」千葉・関根千春 2011

### ◎公民的分野

- ・ニュースに目を向ける。
- ・日本国憲法前文のイメージを自由に絵にして発言した  
＝☆「当たり前教育－障害児学級で社会科を（パート1・2）」埼玉・小林幸雄 2003, 2004

### ◎進路学習

☆「卒後の豊かな生活を求めて－学校と施設の連携の模索」千葉・関根千春 2012

### ◎学校卒業後地域で暮らす

☆「障害児の余暇活動に取り組んで－長期休業中の地域ケアの実践より」宮城・高橋誠 1997

### ◎インクルージョン

☆「みんなで変わろう－普通学級の特別支援教育－」三重・田畑美代子 2013

### ◎障がい者の歴史・人権

☆「光明学校の学童疎開」東京・竹下忠彦 2013

### ◎障がい者と文学

☆「近代文学と障害者－正宗白鳥の場合－」埼玉・小林幸雄 2012

## （2）具体的な方法

◎上記のテーマの全てにおいて、皆で共同で行う体験学習・作業学習を通して、社会認識を深める。

☆「小さな旅甲府・生活単元学習」山梨・向山三樹 2010

◎社会科の授業以外でもできる。

- ・低学年の社会認識は全教科、全生活の中で育つ」  
★「地域に学ぶ社会科」石井重雄（1985 岩崎書店）

☆「療育活動を取り入れた体育の学習」三重・田畑美代子 2017

- ・国語・歴史・総合的学習を総合して1年間学習した。

☆「障害児の社会認識をどう育てたか」兵庫・足立幸夫 1974

◎子ども達に教え込むのではなく、その子の困っていること、抱えている問題、あるいはその子がやりたいこと、から出発すること。

★「中学生とともに“社会”を学び、社会に生きる」埼玉・小林幸雄＝「学び合い・育ち合う子どもたち－明日の授業をつくる」麦の会・品川文雄他（2009 全障研出版部）

### ◎授業の展開方法（例）

①おはなし→②深め合い→③絵にかく

- ・話し合い活動

- ・学習のまとめとして**絵画的に表現する**。
- ・板書をノートするのが困難な場合には、模造紙を使い、前時の学習につなげて、わかりやすいようにする。☆上記・兵庫・足立幸夫 1974
- ・調理実習から発展させる手も。
- ☆「がっこうからいえまであるいてみよう」宮城・鈴木宏之 2015

### ◎教材・教具などの工夫を

- ・**視聴覚資料**を多く使ってわかりやすくする。
- ☆「歴史を通じて生き方を考えさせる」兵庫・谷充弘 2018

### (3) レポート一覧

なお、以上に書いてきたレポートはほんの一例であり、これ以外にも沢山の実践レポートが発表されている。それについては、本共同研究の「Ⅲ-2、社会認識を育てる具体的なレポートの例」と「Ⅳ. ここ11年間のレポート一覧」を参照されたい。

### (4) 指導上の留意点

- ◎子どもが主体的に学べる場・集団・内容を保証すること。
- ◎学ぶ場は、障害児学校、学級、普通学級から選択できるのが望ましく、肝心なのはその子どもにもふさわしい学ぶ場・集団・内容が保証されていることである。

☆以下は★「地域に学ぶ社会科」石井重雄（1985 岩崎書店）より抜粋。

- ◎社会認識の育て方には2つの側面がある。
  - ①社会的事実を外側から客観的に冷静にとらえる目（知識）
  - ②社会的事実のなかに自分も生きており、自分の内面と関わらせてとらえる力（認識）
    - 客観的な知識を民主的な認識に練り上げるためには、子どもの**感動**を大事にすること。
    - 知識に**感動**（感情や感覚を動員して）を結びつけることで、子どもたちに生き生きと知識を学ばせ、**認識**を育てる手立てとする。（石井重雄）
- ◎社会科がつまらなくなっている理由は？
  - ①同心円的発達論に縛られている。
    - \*「国語ができないのに社会科ができるわけがない」という考え方もこれにつながる！？
    - やり方を工夫すればよい。
  - ②社会や生産の仕組みや分類だけに着目して、そこで働く人たちの実態や問題が捨象されがちだ。
  - ③地域の開発や産業と地域住民との矛盾に触れない。
  - ④子どもの問題意識や生活意識に働きかける社会科ではなく、暗記中心になっている。
    - 〈キーワードは〉教室での暗記だけではつまらない→作業学習を取り入れる・感動させる授業・地域に出て学ぶ・人が見える学習・問題を見出しその解決法をさぐる。
    - 育てたい力…人権意識・社会認識・主体性を育てる。
- ◎修身＝道徳と社会科の違い…「一本の丸木橋」の話（一本の丸木橋を二匹のヤギが我こそ先に渡ろうとして争っているうちに、二匹とも谷底に落ちてしまうという話）
  - 〈道徳〉丸木橋は変えられないものとしてとらえさせる。→だから互いに譲り合って仲良くしなさいと言う心構えを説く。
  - ↑
  - 〈社会科〉自分たちで考え、意見を出し合って、橋が細いから争うということを見抜き、その橋を変えることがお互いの幸せにつながるという発想の下、解決法を探っていく。（石井重雄）
  - 民衆の立場に立てること、こういう自由な発想を育てることが社会認識を育てることだ！これは知識・暗記力の問題ではない！**

### Ⅲ-2. 社会認識を育てる具体的な授業（レポート）の例

#### Ⅲ-2-① 「前社会科」段階＝「自己認識」「他者認識」

〈授業例〉

A	<p>〈特別支援学級〉〈小学校1・2年生〉</p> <p>三重の田畑美代子さんの「療育活動を取り入れた体育の学習～1・2年生複式体育」（2017 神奈川大会）</p> <p>〈内容〉小学校1・2年生複式19名の体育の授業に、担任する支援学級の児童3人がいたので筆者（田畑さん）が担当した。初めてのことが苦手の児童がいたので、運動会や体力テストなどの学校行事に合わせて、その先行学習になるように年間学習計画を立てた。またドッジボールや縄跳びをする前に、ボールを投げる運動やリズム跳びの運動を取り入れた。支援学級の児童は、自分の体を動かすイメージが持てなくて、動きがぎこちなかったり、人と呼吸を合わせて同じ動きをすることも苦手だったので、体づくりとして、跳んだりくぐったりする動きや人と合わせて動くことを授業の中に取り入れて1年間続けた。具体的な内容はレポート参照。1年を通じて気を付けたことは、「×は出さない」「繰り返しやる」「安心できる場を設ける」「一人でする活動と人と一緒にする活動をする」。「できない」と固まる子に「見ていて、やろうと思ったら入っておいで」と待った。1授業時間に大きく3つの活動をして、どの子どもも必ずどれかに入れるように工夫した。体育は週3回あるので、たとえ5分でも1年間続けると、体の動きが変わってくる。その5分を療育活動で行っている動きにした。</p> <p>*このレポートの中で、土田が「社会認識」の学習として注目したのが、「シェルボーンムーブメント」の中の（1）の「身体認識」は「自己認識」の一環であり、（3）の「人との関係」は「他者認識」として位置づけられると考えた。</p> <p>さらに「グループ」の活動も同様であり、さらには「他者への共感能力」「社会性」身に着ける学習として位置づけることができる。</p>
---	--

#### Ⅲ-2-② 「社会力」を身につける学習

〈授業例〉

A	<p>〈特別支援学校〉〈肢体不自由〉〈中学部・高等部〉</p> <p>千葉の関根千春さんの「特別支援学校での生徒会活動」（2011 福岡大会）</p> <p>〈内容〉児童生徒数が少なく、年度によっても児童生徒数が極端に違うため、中学部・高等部と一緒に「中高生徒会」として活動している。また小学部にも「児童会」が発足し、必要に応じて合同で活動している。</p> <p>1、組織</p> <p>（1）生徒会</p> <p>○会員…中・高等部に在籍する生徒全員。年600円を生徒会費として納入。</p> <p>○執行部…生徒会長1名（高等部より選出）、副会長2名（中・高等部より各1名選出）。*生徒会役員選挙により選出される。</p> <p>○役員会…執行部3名に加え、各学年・クラスから1名ずつ選出された役員より構成。*執行部単独の活動はほぼなく役員会で活動。</p> <p>（2）児童会</p>
---	--

<p>○役員会…高学年（４～６年）の各学年・クラスから１名ずつ選出された役員より構成。役員会の中で児童会長を選出。選挙はなし。 *多くの児童生徒が自力での活動に困難を抱えているので、選出された児童生徒には、担任が児童生徒会担当教員として、ともに活動に加わる。</p> <p>２、活動時間 放課後に活動することは不可能なので、毎週水曜日の昼休み（１３：００～１３：２０）に役員会を開催し、ほとんどの協議・活動を行っている。また学級へ戻って担当教員と一緒に活動することもある。</p> <p>３、年間の主な活動内容 ○５月…前期生徒総会（年間活動計画、予算案の審議）。クラス討議を経て、発言通告もしてもらう。 …（中・高等部）体育祭（生徒会種目の企画・運営） ○６月…（小学部）運動会（開・閉会式の司会など） ○７月…訪問部への手紙（役員が中心になり訪問部生徒に手紙を送る） ○１１月…文化祭（フィーレの企画運営、全校集会の開催、文化祭掲示板の設置）*児童・生徒会が合同で行う。 ○１２月…生徒会主催行事の企画・運営 ○１月…生徒会役員選挙（選挙管理委員会、選挙活動・立会演説会・投開票） ○２月…後期生徒総会（年間活動報告、決算の審議）</p> <p>４、意義…どんなに障害が重い児童生徒も、社会の一員となるための学びや体験は必要。それらの活動を通して、社会認識を育て、深めることが可能である。</p> <p>５、留意点…①単純なことの繰り返し（わかりやすさ→見通しを持つ→主体的な活動）②仲間の前に立つ（代表としての挨拶や役割→自信を持つ→自己肯定感）③実物を通して学ぶ・体験する（実際の投票箱や記載台を使用した役員選挙）④行事の中に活動の場を設定する（楽しい活動→意欲の高まり→達成感）*様々な人との交流を…近隣高等学校の吹奏楽部とのコラボ。</p> <p>６、課題…指導に当たる教師集団の課題＝担当が変わると活動が変わってしまう。全校での共通理解の難しさ。若い教員は、生徒会活動の意義がわからない。生徒会不要論もある。</p>
<p><b>B</b> <b>〈特別支援学校〉〈知的障害高〉〈高等部〉</b></p> <p><b>宮城の高橋 誠さんの「未来の主権者を育てる生徒会役員選挙」 （２０１３ 大阪大会）</b></p> <p>〈内容〉前期（４月＝２，３年生が立候補できる）と後期（１０月＝１，２年生が立候補できる）の２回行われる。２回行っているのは、立候補するチャンスを増やすため。役員は会長１名、副会長２名。学年は関係ないので、１年生だけで３人当選することもある。選挙管理委員は３人。互選された委員長が、公示（正確には告示）日に選挙の意義を説明する。委員長以外の２人が、立候補の要件、選挙日程などを説明する。*この時に、生徒会担当の教員が「選挙について」の授業を行う。この時の資料として「小学６年生向けの社会科番組（見える歴史）」を使う。また難しそうな部分はカットし、選挙で禁止されている「強要」「賄賂」「誘惑」等はイラストを使って面白く提示する。投票日当日、投票の直前に「立会演説会」を行う。そして投票。仕切りのある記載台を用意して個人の投票の秘密が守られるようにする。字が書けない生徒のために写真入り投票用紙も用意して、○を付けたり、指差しで全員が</p>

投票する。期日前投票も行う。すぐに開票が行われ、当選者は決意表明を行う。落選者のフォローも欠かせない。

### Ⅲ-2-③ 「地域学習」

〈授業例〉

A	<p>〈特別支援学校〉〈肢体不自由〉〈高等部〉</p>
	<p>東京の竹下忠彦さんの「肢体不自由校における買い物学習の取り組み」－重度障がい児にとっての社会体験とは－ (2014 東京/関東大会)</p>
	<p>〈内容〉一番障がいの重い(自立活動中心の)Cグループの生徒10名(教員7名)が、年1回買い物学習に取り組んでいる。今回は、総合的学習の時間に地域にある大学の生協に行った。事前学習を3回行った。重点を「生徒たちの期待感を膨らませること」「本番で力が発揮できるように、何を買いに行くか意識すること」に置いた。東京都で進められている特別支援教育のリストラや、新自由主義的な教育の推進、それに基づく教育内容の「マニュアル化」「個別化」そして「労働能力の育成」等に対して、子ども理解から出発し、子どもの願いに寄り添いながら教育実践を進めている。◎生徒の「認識面」の実態としては、①授業全体の様子を見聞きすることにより、何をしているかおおよそ把握できる生徒から、目の前に提示された物について教員の言葉かけにより見る(意識する)ことができる生徒まで幅がある。②MTの話に意識を向けられる生徒から、注意を向けるため近くで援助が必要な生徒もいる。③周りにいる人や集団の規模によって、持っている力が発揮できたり、できなかったりする。信頼できる大人の支援が必要。3～4回繰り返すことで簡単な見通しが持てる。④一緒にいる友達を意識できる生徒と、まだ関心の持てない生徒がいる。◎「コミュニケーションの力」の実態は、①全員が、身近な大人からの問いかけに対し、手をあげる、手指を動かす、声を出す、表情などの安定した方法で応答することができるが、まだ表出が弱く、特にNOの意思表示が弱い。②人との関わりを求める力、共感を求める力、要求を明確な方法で伝える力が育ってきており、それを充実させるのが課題である。これらの実態を踏まえて、事前学習を行った。◎事前学習で工夫した点…①毎回「買い物学習の歌」を歌って学習内容を意識させ、期待を高める。②スライドショーやしおりに写真を貼ることで目的地までのポイントを歌も交えて意識する。③売っている物をスライドショーだけでなく、実物に触ったりして知る。③買ってくるものは保護者の協力を得て「家族に頼まれたもの」買うまたは本人の好みのものを聞いておいた。④お金のやり取りは難しいので、レジの方を意識して、教員と一緒に「これを下さい」と発声する練習をした。⑤3回の学習を同じ内容で行い、定着させるとともに、焦点を当てる事柄を少しずつ変化させた。◎当日は、10人を2つの班に分け、午前と午後に実施した。帰ってきた直後に、自分が買ったものをみんなに報告した。評価の例は「…会計レジでは、店員さんを見て商品を受け取ることができた」◎事後学習…しおりに当日の写真を貼り、振り返りの学習を行った。 *このレポートは、1の「前社会科」段階＝自己認識・他者認識の学習も入っていると思われる。</p>
B	<p>〈普通学級〉〈小学校3・4年生の複式〉</p> <p>三重の田畑美代子さんの「五感を使って地域学習」 (2015 宮城大会)</p>



〈内容〉複式なので子どもたちにはかなり発達差がある。文章に頼っていたら、子どもたちは同じ土俵に乗れない。地域を教材にして、実際に見たり、聞いたり、体験したり、五感を使うことで、それぞれの子どもたちが学習に参加できる。

1、校区の地図作り…学校の周りを歩いて地図にする作業。初めは「空が見えた」「山が見えた」と地図を青く塗ったり、お椀状の山を描いたりしていた子どもたちも、①実際に歩く→②グーグルマップで確かめる→ストリートビューも使って道路と歩いた景色を一致させていくと、描けるようになった。

2、米作りの見学…保護者の協力を得て、年間を通して「田植え」「稲刈り」「精米」を見学し、販売についても聞き取り調査を行った。まず、機械による田植えを見学すると、学校で自分たちが米作りをしている田んぼと比べてその大きさがわかった。

3、地図を持って土地利用の様子がわかりやすい地区へ…子どもの祖父が案内してくれた。地図と合わせながら、この印は田んぼ、竹、果樹園と確認した。教室に戻って地図に色を塗ると、子どもたちは田んぼの緑と山の緑を区別して描いていた。

4、棚田の水の冷たさ、ぬるさ…一番上の水は山の湧水なので冷たくておいしい。だけど「温かい水で育つ米が、どうして冷たい水で育つの？」と言う疑問が。でも「俺が触った田んぼはぬるかった!」。それは上から流れてくる間にだんだんぬるくなることを知った。「こうへいくんのおじいさんはすごい」という感想。

5、精米の見学…精米を見学した時に、子どもたちから「おいしそう匂いがする」「ご飯を炊くときのおい」という声。→買ってもらえる米を作るための工夫、秘訣は肥料の量と与える時期、土の作り方と聞くことができた。

6、まとめはワンパターン…学習内容のまとめはパンフレット作り。教科書のまとめ方を参考にしていっつも同じパターンにした。初めはできなかった子も繰り返すうちにできるように。またどうしても「できない。わからん」と言っていた子には、友達の作ったものを見せて「真似したらいい」と。初めはそっくり真似ていたが、2回目からは自分でできるようになった。絵を描かせるが、できない子には写真を選ばせて、その説明や感想を書くようにした。

◎実際に体験することで、発達差の別なく気づいたことを言い、課題を持ち学習できるようになっていった。授業で見学した後で、自分の家のコメ作りの様子や近所の田んぼの様子を見てくる子どもも増えてきた。

◎こんな配慮も必要だった…①自分の住んでいる地域に一番に行きたかった!→今回はここ、次はここを見通しを持たせること。

②農業の後継者不足の悩みを知るために、圃場整備の竣工碑の文章資料を読んだ。3年生は読めないが、4年生が音読していると「僕が田んぼをすればいいんやろ」と、内容が理解できた。

## IV-1. 歴教協「障がい児教育分科会」の2009年から2019年までの11年間のレポートと歴史地理教育に載ったレポート一覧（大会年順に並べたもの）

年	大会名		所属・名前	校種	学級・知・肢	テーマ
2009	札幌大会	第五福竜丸に出会った生徒たち－特別支援学校高等部の社会科の授業－	千葉 関根千春	特支(高)	肢体	平和学習
2009	札幌大会	養護学校における国際理解の方法を探って－中国とモンゴルの楽器の音色を聴いてみよう－	長野 嶋崎晴美	特支(小・中)	肢体	体験活動(校内)
2009	札幌大会	みんなで大きくなろう	三重 田畑美代子	1小学校	普通学級	インクルージョン
2009	札幌大会	障がい児の余暇活動「親子プロ野球観戦」と経済危機	宮城 高橋 誠	1小学校	特支学級	体験活動(地域)
2009	札幌大会	たいこと交流	埼玉 小林幸雄	2中学校	特支学級	交流学習
2009	札幌大会	高等部1年生の文化祭劇の取り組み	東京 竹下忠彦	特支(高)	肢体	体験活動(校内)
2010	名古屋大会	行くぞ、秋田！踊るぞ、ソーラン！－特別支援学校のわらび座修学旅行－	千葉 関根千春	特支(高)	肢体	体験活動(校外)
2010	名古屋大会	「人数の少ない方が多い方に合わせればいいんや」－特別支援教育の視点を普通学級に－	三重 田畑美代子	1小学校	普通学級	インクルージョン
2010	名古屋大会	障がい児教育分科会の15年の歩み	宮城 高橋 誠			障がい児教育
2010	名古屋大会	地域で文化的に生きる	埼玉 小林幸雄	2中学校	特支学級	卒業後の生き方
2010	名古屋大会	学級農園における循環型農業の実践と子どもたちの社会認識	埼玉 春名政弘	2中学校	特支学級	体験活動(校内)
2010	名古屋大会	平和教育「沖繩修学旅行から文化祭の劇へ」	埼玉 土田謙次	特支(高)	知的	平和学習
2010	名古屋大会	小さな旅甲府・生活単元学習	山梨 向山三樹	1小学校	特支学級	体験活動(校外)
2010	名古屋大会	高等部重度障がい児グループの社会見学の取り組み	東京 竹下忠彦	特支(高)	肢体	体験活動(校外)
2011	福岡大会	特別支援学校での生徒会活動	千葉 関根千春	特支(高)	肢体	自治活動
2011	福岡大会	東日本大震災と障がい児・者の状況(1)	宮城 高橋 誠			障がい者の歴史・人権
2011	福岡大会	市民性と障がい児教育－社会認識の教育への接近－	埼玉 小林幸雄	2中学校	特支学級	卒業後の生き方
2011	福岡大会	長崎修学旅行の事前学習における社会科教育・平和学習	埼玉 土田謙次	特支(高)	知的	平和学習
2011	福岡大会	肢体不自由校における夏休みキャンプの取り組み	東京 竹下忠彦	特支(高)	肢体	体験活動(校外)
2012	千葉大会	共有ノートで育ちあう子ども・保護者・教師	沖繩 曾賀直哉	1小学校	特支学級	ノートに思いを書く
2012	千葉大会	卒後の豊かな生活を求めて－学校と施設の連携の模索－	千葉 関根千春	特支(高)	肢体	卒業後の生き方
2012	千葉大会	避難場所はどこ？－PTA作成防災マップの活用－	三重 田畑美代子	1小学校	普通学級	地図・空間認識
2012	千葉大会	東日本大震災と障がい児・者の状況(2)	宮城 高橋 誠			障がい者の歴史・人権
2012	千葉大会	近代文学と障害者－正宗白鳥の場合－	埼玉 小林幸雄			障がい者と文学
2012	千葉大会	知的障がい児校の課題別学習における社会科教育－寝台列車に乗って山陰地方を放しよ－	埼玉 土田謙次	特支(高)	知的	地理的内容
2012	千葉大会	障害と文学－自己表現の可能性について	神奈川 荒井裕樹			障がい者と文学
2012	千葉大会	障害者文芸同人誌「しのめ」終刊に立ち会う	東京 竹下忠彦			障がい者の歴史・人権
2013	大阪大会	みんなで変わろう－普通学級の特別支援教育－	三重 田畑美代子	1小学校	普通学級	インクルージョン
2013	大阪大会	未来の主権者を育てる生徒会役員選挙－特別支援学校高等部での取り組み－	宮城 高橋 誠	特支(高)	知的	自治活動
2013	大阪大会	東日本大震災と障がい児・者の状況(3)	宮城 高橋 誠			障がい者の歴史・人権
2013	大阪大会	関東大震災での朝鮮人虐殺を障害の重い子にどう教えるか？	埼玉 土田謙次	特支(高)	知的	歴史的内容
2013	大阪大会	光明学校の学童疎開	東京 竹下忠彦			障がい者の歴史・人権
2013	大阪大会	聴覚障害者の立場から震災を考える－関東大震災での朝鮮人虐殺を通して－	兵庫 谷 充弘	特支(高)		障がい者の歴史・人権
2014	東京・関東大会	東日本大震災と障がい児・者の状況(4)	宮城 高橋 誠			障がい者の歴史・人権
2014	東京・関東大会	肢体不自由校一般学級での実践「子どもの権利条約と障害者権利条約」	埼玉 土田謙次	特支(高)	肢体	障がい者の歴史・人権
2014	東京・関東大会	肢体不自由校高等部における買い物学習の取り組み－重度障害児にとっての社会体験とは－	東京 竹下忠彦	特支(高)	肢体	体験活動(校外)
2015	宮城大会	五感を使って地域と出会う(小学3・4年生複式学級での社会科学習)	三重 田畑美代子	1小学校	普通学級	体験活動(地域)
2015	宮城大会	がっこうからいまであるいてみよう(特別支援学級の空間認識)	宮城 鈴木宏之	1小学校	特支学級	地図・空間認識
2015	宮城大会	東日本大震災と障がい児・者の状況(5)	宮城 高橋 誠			障がい者の歴史・人権
2015	宮城大会	明治期の視覚障害者の歴史	宮城 中川正人			障がい者の歴史・人権
2015	宮城大会	肢体不自由校一般学級での実践「障害者権利条約」や「福島の実状」をどう教えるか？	埼玉 土田謙次	特支(高)	肢体	障がい者の歴史・人権
2015	宮城大会	普通高校での支援教育の取り組み－クリエイティブスクールの5年間－	神奈川 高木 誠	高校	抜き出し学級？	障がい児教育
2015	宮城大会	学童保育・非常勤体験から感じさせられた「教育現場の貧困と障害児教育」	神奈川 黒川和幸	学童保育		障がい児教育
2015	宮城大会	中学校障害児学級の教科実践－先生今日は社会になったね－	大阪 加藤由紀	2中学校	特支学級	地理・歴史・公的内容
2015	宮城大会	肢体不自由校の準ずる課程の教育課程(類型化)を考える	東京 竹下忠彦	特支		障がい児教育
2016	沖繩大会	発達検査から支援へ	三重 田畑美代子	1小学校	普通学級	インクルージョン
2016	沖繩大会	特別支援学校での『社会認識を育てる授業実践』を振り返る(1)	埼玉 土田謙次	特支(小・中・高)		地理・歴史・公的内容
2016	沖繩大会	学校介護職員導入後の学校現場の変化	東京 竹下忠彦	特支(小・中・高)		障がい児教育
2017	神奈川大会	療育活動を取り入れた体育の学習	三重 田畑美代子	1小学校	普通学級	他教科における社会認識
2017	神奈川大会	特別支援学校での『社会認識を育てる授業実践』を振り返る(2)	埼玉 土田謙次	特支(小・中・高)		障がい児教育における社会認識
2017	神奈川大会	地域で、普通に生きてほしいな	神奈川 長塚淑江	1小学校	特支学級	卒業後の生き方
2017	神奈川大会	日本国憲法と障害者の権利保障の歴史を学ぶ	神奈川 溝口一朗	特支(高)	肢体	障がい者の歴史・人権
2017	神奈川大会	障害児学童疎開資料集(全4巻)刊行の取り組み	東京 竹下忠彦			障がい者の歴史・人権
2018	京都大会	地域でどう生きるか	埼玉 小林幸雄			卒業後の生き方
2018	京都大会	特別支援学校での『社会認識を育てる授業実践』を振り返る(3)	埼玉 土田謙次	特支(小・中・高)		障がい児教育における社会認識
2018	京都大会	被災地(福島)に思いを寄せて～合唱曲『群青』を通して学ぶ(特別支援学級で)～	東京 山下洋児	2中学校	特支学級	障がい者の歴史・人権
2018	京都大会	光明学校学童疎開記念碑建立の取り組み	東京 竹下忠彦			障がい者の歴史・人権
2018	京都大会	「歴史を通じて生き方を考えさせる」～できるだけ身近な問題として興味づけ、自分の生き方を考えさせる試み～	兵庫 谷 充宏	ろう学校(高)		地理・歴史・公的内容
2019	埼玉大会	盲学校中学部での社会科の授業－主権者育成の試み－	岡山 市場美雄	盲学校中学部		地理・歴史・公的内容
2019	埼玉大会	地域の学校で、共に育つ	三重 田畑美代子	1小学校	普通学級	インクルージョン
2019	埼玉大会	自分の言葉で伝えたい	三重 三谷陽平	1小学校	特支学級	インクルージョン
2019	埼玉大会	知的特別支援学校における生活単元学習の取り組み～さつまいも栽培奮闘記～	埼玉 津田隆広	特支(小)		
2019	埼玉大会	障がい児の社会認識を深めるために－21分科会のまとめ－	埼玉 土田謙次			障がい児教育における社会認識
2019	埼玉大会	絵本の中の障害児・者	神奈川 長塚淑江			障がい者の歴史・人権
02年三重大会		猿と人間の食べ物の違い	東京 竹下忠彦	特支(中)		体験活動(校内)
04年山形大会		資料館の学芸員を招いた勾玉作り	千葉 関根千春			体験活動(校内)
97年宮城大会		障害児の空間認識に関する指導	宮城 菊池章博			地図・空間認識
99年奈良大会		「地図学習からさんぽへ」	大阪 加藤由紀	2中学校	特支学級	地図・空間認識
歴史地理教育96年12月号		障害児学級の戦争学習…ランドセルをしまったじぞうさんをきっかけに	東京 山下洋児	2中学校	特支学級	平和学習
歴史地理教育97年9月号		障害児教育における時間と空間の認識	宮城 高橋 誠	1小学校	特支学級	地図・空間認識、時間認識も

## IV-2. 歴教協「障がい児教育分科会」の2009年から2019年までの11年間のレポートと歴史地理教育に載ったレポート一覧（テーマ別に並べたもの）

年	大会名			所属・名前	校種	学級・知・肢	テーマ
2009	札幌大会	みんなで大きくなろう	三重	田畑美代子	1小学校	普通学級	インクルージョン
2010	名古屋大会	「人数の少ない方が多い方に合わせればいいんや」－特別支援教育の視点を普通学級に－	三重	田畑美代子	1小学校	普通学級	インクルージョン
2013	大阪大会	みんなで変わろう－普通学級の特別支援教育－	三重	田畑美代子	1小学校	普通学級	インクルージョン
2016	沖縄大会	発達検査から支援へ	三重	田畑美代子	1小学校	普通学級	インクルージョン
2019	埼玉大会	地域の学校で、共に育つ	三重	田畑美代子	1小学校	普通学級	インクルージョン
2019	埼玉大会	自分の言葉で伝えたい	三重	三谷陽平	1小学校	特支学級	インクルージョン
2009	札幌大会	たいこと交流	埼玉	小林幸雄	2中学校	特支学級	交流学習
2011	福岡大会	特別支援学校での生徒会活動	千葉	関根千春	特支(高)	肢体	自治活動
2013	大阪大会	未来の主権者を育てる生徒会役員選挙－特別支援学校高等部での取り組み－	宮城	高橋 誠	特支(高)	知的	自治活動
2010	名古屋大会	障がい児教育分科会の15年の歩み	宮城	高橋 誠			障がい児教育
2015	宮城大会	普通高校での支援教育の取り組み－クリエイティブスクールの5年間－	神奈川	高木 誠	高校	抜き出し学級?	障がい児教育
2015	宮城大会	学童保育・非常勤体験から感じさせられた「教育現場の貧困と障害児教育」	神奈川	黒川和幸	学童保育		障がい児教育
2015	宮城大会	肢体不自由校の準ずる課程の教育課程(類型化)を考える	東京	竹下忠彦	特支		障がい児教育
2016	沖縄大会	学校介護職員導入後の学校現場の変化	東京	竹下忠彦	特支(小・中・高)		障がい児教育
2012	千葉大会	近代文学と障害者－正宗白鳥の場合－	埼玉	小林幸雄			障がい者と文学
2012	千葉大会	障害と文学－自己表現の可能性について	神奈川	荒井裕樹			障がい者と文学
2011	福岡大会	東日本大震災と障がい児・者の状況(1)	宮城	高橋 誠			障がい者の歴史・人権
2012	千葉大会	東日本大震災と障がい児・者の状況(2)	宮城	高橋 誠			障がい者の歴史・人権
2012	千葉大会	障害者文芸同人誌「しのめ」終刊に立ち会う	東京	竹下忠彦			障がい者の歴史・人権
2013	大阪大会	東日本大震災と障がい児・者の状況(3)	宮城	高橋 誠			障がい者の歴史・人権
2013	大阪大会	光明学校の学童疎開	東京	竹下忠彦			障がい者の歴史・人権
2013	大阪大会	聴覚障害者の立場から震災を考える－関東大震災での朝鮮人虐殺を通して－	兵庫	谷 充弘	特支ろう(高)		障がい者の歴史・人権
2014	東京・関東大会	東日本大震災と障がい児・者の状況(4)	宮城	高橋 誠			障がい者の歴史・人権
2014	東京・関東大会	肢体不自由校一般学級での実践「子どもの権利条約と障害者権利条約」	埼玉	土田謙次	特支(高)	肢体	障がい者の歴史・人権
2015	宮城大会	東日本大震災と障がい児・者の状況(5)	宮城	高橋 誠			障がい者の歴史・人権
2015	宮城大会	明治期の視覚障害者の歴史	宮城	中川正人			障がい者の歴史・人権
2015	宮城大会	肢体不自由校一般学級での実践「障害者権利条約」や「福島の実状」をどう教えるか?	埼玉	土田謙次	特支(高)	肢体	障がい者の歴史・人権
2017	神奈川大会	日本国憲法と障害者の権利保障の歴史を学ぶ	神奈川	溝口一朗	特支(高)	肢体	障がい者の歴史・人権
2017	神奈川大会	障害児学童疎開資料集(全4巻)刊行の取り組み	東京	竹下忠彦			障がい者の歴史・人権
2018	京都大会	被災地(福島)に思いを寄せて～合唱曲『群青』を通して学ぶ(特別支援学級で)～	東京	山下洋児	2中学校	特支学級	障がい者の歴史・人権
2018	京都大会	光明学校学童疎開記念碑建立の取り組み	東京	竹下忠彦			障がい者の歴史・人権
2019	埼玉大会	絵本の中の障害児・者	神奈川	長塚淑江			障がい者の歴史・人権
2010	名古屋大会	地域で文化的に生きる	埼玉	小林幸雄	2中学校	特支学級	卒業後の生き方
2011	福岡大会	市民性と障がい児教育－社会認識の教育への接近－	埼玉	小林幸雄	2中学校	特支学級	卒業後の生き方
2012	千葉大会	卒後の豊かな生活を求めて－学校と施設の連携の模索－	千葉	関根千春	特支(高)	肢体	卒業後の生き方
2017	神奈川大会	地域で、普通に生きてほしいな	神奈川	長塚淑江	1小学校	特支学級	卒業後の生き方
2018	京都大会	地域でどう生きるか	埼玉	小林幸雄			卒業後の生き方
2010	名古屋大会	行くぞ、秋田!踊るぞ、ソーラン!－特別支援学校のわらび座修学旅行－	千葉	関根千春	特支(高)	肢体	体験活動(校外)
2010	名古屋大会	小さな旅甲府・生活単元学習	山梨	向山三樹	1小学校	特支学級	体験活動(校外)
2010	名古屋大会	高等部重度障がい児グループの社会見学の取り組み	東京	竹下忠彦	特支(高)	肢体	体験活動(校外)
2011	福岡大会	肢体不自由校における夏休みキャンプの取り組み	東京	竹下忠彦	特支(高)	肢体	体験活動(校外)
2014	東京・関東大会	肢体不自由校高等部における買い物学習の取り組み－重度障害児にとっての社会体験とは－	東京	竹下忠彦	特支(高)	肢体	体験活動(校外)
2009	札幌大会	養護学校における国際理解の方法を探って－中国とモンゴルの楽器の音色を聴いてみよう－	長野	嶋崎晴美	特支(小・中)	肢体	体験活動(校内)
2009	札幌大会	高等部1年生の文化祭劇の取り組み	東京	竹下忠彦	特支(高)	肢体	体験活動(校内)
2010	名古屋大会	学級農園における循環型農業の実践と子どもたちの社会認識	埼玉	春名政弘	2中学校	特支学級	体験活動(校内)
02年三重大会		猿と人間の食べ物の違い	東京	竹下忠彦	特支(中)		体験活動(校内)
04年山形大会		資料館の学芸員を招いた勾玉作り	千葉	関根千春			体験活動(校内)
2009	札幌大会	障がい児の余暇活動「親子プロ野球観戦」と経済危機	宮城	高橋 誠	1小学校	特支学級	体験活動(地域)
2015	宮城大会	五感を使って地域と出会う(小学3・4年生複式学級での社会科学習)	三重	田畑美代子	1小学校	普通学級	体験活動(地域)
2017	神奈川大会	療育活動を取り入れた体育の学習	三重	田畑美代子	1小学校	普通学級	他教科における社会認識
2012	千葉大会	避難場所はどこ?－PTA作成防災マップの活用－	三重	田畑美代子	1小学校	普通学級	地図・空間認識
2015	宮城大会	がっこうからいえまであるいてみよう(特別支援学級児の空間認識)	宮城	鈴木宏之	1小学校	特支学級	地図・空間認識
97年宮城大会		障害児の空間認識に関する指導	宮城	菊池章博			地図・空間認識
99年奈良大会		「地図学習からさんぽへ」	大阪	加藤由紀	2中学校	特支学級	地図・空間認識
歴史地理教育97年9月号		障害児教育における時間と空間の認識	宮城	高橋 誠	1小学校	特支学級	地図・空間認識、時間認識も
2015	宮城大会	中学校障害児学級の教科実践－先生今日は社会になったね－	大阪	加藤由紀	2中学校	特支学級	地理・歴史・公民的内容
2016	沖縄大会	特別支援学校での『社会認識を育てる授業実践』を振り返る(1)	埼玉	土田謙次	特支(小・中・高)		地理・歴史・公民的内容
2018	京都大会	「歴史を通じて生き方を考えさせる」～できるだけ身近な問題として興味づけ、自分の生き方を考えさせる試み～	兵庫	谷 充宏	ろう学校(高)		地理・歴史・公民的内容
2019	埼玉大会	盲学校中学部での社会科の授業－主権者育成の試み－	岡山	市場美雄	盲学校中学部		地理・歴史・公民的内容
2012	千葉大会	知的障がい児校の課題別学習における社会科教育－寝台列車に乗って山陰地方を旅しよう－	埼玉	土田謙次	特支(高)	知的	地理的内容
2012	千葉大会	共有ノートで育ちあう子ども・保護者・教師	沖縄	曾賀直哉	1小学校	特支学級	ノートに思いを書く
2009	札幌大会	第五福竜丸に出会った生徒たち－特別支援学校高等部の社会科の授業－	千葉	関根千春	特支(高)	肢体	平和学習
2010	名古屋大会	平和教育「沖縄修学旅行から文化祭の劇へ」	埼玉	土田謙次	特支(高)	知的	平和学習
2011	福岡大会	長崎修学旅行の事前学習における社会科教育・平和学習	埼玉	土田謙次	特支(高)	知的	平和学習
歴史地理教育96年12月号		障害児学級の戦争学習…ランドセルをしょったじどうさんをきっかけに	東京	山下洋児	2中学校	特支学級	平和学習
2013	大阪大会	関東大震災での朝鮮人虐殺を障害の重い子にどう教えるか?	埼玉	土田謙次	特支(高)	知的	歴史的内容
2017	神奈川大会	特別支援学校での『社会認識を育てる授業実践』を振り返る(2)	埼玉	土田謙次	特支(小・中・高)		障がい児教育における社会認識
2018	京都大会	特別支援学校での『社会認識を育てる授業実践』を振り返る(3)	埼玉	土田謙次	特支(小・中・高)		障がい児教育における社会認識
2019	埼玉大会	障がい児の社会認識を深めるために－21分科会のまとめ－	埼玉	土田謙次			障がい児教育における社会認識
2019	埼玉大会	知的特別支援学校における生活単元学習の取り組み～さつまいも栽培奮闘記～	埼玉	津田隆広	特支(小)		

## IV-3. 歴協協「障がい児教育分科会」の2009年から2019年までの11年間のレポートと歴史地理教育に載ったレポート一覧（校種別に並べたもの）

年	大会名			所属・名前	校種	学級・知・肢	テーマ
2019	埼玉大会	自分の言葉で伝えたい	三重	三谷陽平	1小学校	特支学級	インクルージョン
2017	神奈川大会	地域で、普通に生きてほしいな	神奈川	長塚淑江	1小学校	特支学級	卒業後の生き方
2009	札幌大会	障がい児の余暇活動「親子プロ野球観戦」と経済危機	宮城	高橋 誠	1小学校	特支学級	体験活動（地域）
2015	宮城大会	がっこうからいまであるてみよう（特別支援学級児の空間認識）	宮城	鈴木宏之	1小学校	特支学級	地図・空間認識
歴史地理教育97年9月号		障害児教育における時間と空間の認識	宮城	高橋 誠	1小学校	特支学級	地図・空間認識、時間認識も
2012	千葉大会	共有ノートで育ちあう子ども・保護者・教師	沖縄	曾賀直哉	1小学校	特支学級	ノートに思いを書く
2010	名古屋大会	小さな旅甲府・生活単元学習	山梨	向山三樹	1小学校	特支学級	体験活動（校外）
2009	札幌大会	みんなで大きくなろう	三重	田畑美代子	1小学校	普通学級	インクルージョン
2010	名古屋大会	「人数の少ない方が多い方に合わせればいいんや」ー特別支援教育の視点を普通学級にー	三重	田畑美代子	1小学校	普通学級	インクルージョン
2013	大阪大会	みんなで変わろうー普通学級の特別支援教育ー	三重	田畑美代子	1小学校	普通学級	インクルージョン
2016	沖縄大会	発達検査から支援へ	三重	田畑美代子	1小学校	普通学級	インクルージョン
2019	埼玉大会	地域の学校で、共に育つ	三重	田畑美代子	1小学校	普通学級	インクルージョン
2015	宮城大会	五感を使って地域と出会う（小学3・4年生複式学級での社会科学習）	三重	田畑美代子	1小学校	普通学級	体験活動（地域）
2017	神奈川大会	療育活動を取り入れた体育の学習	三重	田畑美代子	1小学校	普通学級	他教科における社会認識
2012	千葉大会	避難場所はどこ？ーPTA作成防災マップの活用ー	三重	田畑美代子	1小学校	普通学級	地図・空間認識
2009	札幌大会	たいこと交流	埼玉	小林幸雄	2中学校	特支学級	交流学習
2010	名古屋大会	地域で文化的に生きる	埼玉	小林幸雄	2中学校	特支学級	卒業後の生き方
2018	京都大会	被災地（福島）に思いを寄せて～合唱曲『群青』を通して学ぶ（特別支援学級で）～	東京	山下洋児	2中学校	特支学級	障がい者の歴史・人権
2011	福岡大会	市民性と障がい児教育ー社会認識の教育への接近ー	埼玉	小林幸雄	2中学校	特支学級	卒業後の生き方
2010	名古屋大会	学級農園における循環型農業の実践と子どもたちの社会認識	埼玉	春名政弘	2中学校	特支学級	体験活動（校内）
99年奈良大会		「地図学習からさばへ」	大阪	加藤由紀	2中学校	特支学級	地図・空間認識
2015	宮城大会	中学校障害児学級の教科実践ー先生今日は社会になったねー	大阪	加藤由紀	2中学校	特支学級	地理・歴史・公民的内容
歴史地理教育96年12月号		障害児学級の戦争学習…ランドセルをしょったじぞうさんをぎっかきに	東京	山下洋児	2中学校	特支学級	平和学習
2015	宮城大会	学童保育・非常勤体験から感じさせられた「教育現場の貧困と障害児教育」	神奈川	黒川和幸	学童保育		障がい児教育
2015	宮城大会	普通高校での支援教育の取り組みークリエイティブスクールの5年間ー	神奈川	高木 誠	高校	抜き出し学級？	障がい児教育
2015	宮城大会	肢体不自由校の準ずる課程の教育課程（類型化）を考える	東京	竹下忠彦	特支		障がい児教育
2011	福岡大会	特別支援学校での生徒会活動	千葉	関根千春	特支（高）	肢体	自治活動
2014	東京・関東大会	肢体不自由校一般学級での実践「子どもの権利条約と障害者権利条約」	埼玉	土田謙次	特支（高）	肢体	障がい者の歴史・人権
2015	宮城大会	肢体不自由校一般学級での実践「障害者権利条約」や「福島の現状」をどう教えるか？	埼玉	土田謙次	特支（高）	肢体	障がい者の歴史・人権
2017	神奈川大会	日本国憲法と障害者の権利保障の歴史を学ぶ	神奈川	溝口一朗	特支（高）	肢体	障がい者の歴史・人権
2010	名古屋大会	行くぞ、秋田！踊るぞ、ソーラン！ー特別支援学校のわらび座修学旅行ー	千葉	関根千春	特支（高）	肢体	体験活動（校外）
2010	名古屋大会	高等部重度障がい児グループの社会見学の取り組み	東京	竹下忠彦	特支（高）	肢体	体験活動（校外）
2014	東京・関東大会	肢体不自由校高等部における買い物学習の取り組みー重度障害児にとっての社会体験とはー	東京	竹下忠彦	特支（高）	肢体	体験活動（校外）
2009	札幌大会	高等部1年生の文化祭劇の取り組み	東京	竹下忠彦	特支（高）	肢体	体験活動（校内）
2009	札幌大会	第五福竜丸に出会った生徒たちー特別支援学校高等部の社会科の授業ー	千葉	関根千春	特支（高）	肢体	平和学習
2013	大阪大会	未来の主権者を育てる生徒会役員選挙ー特別支援学校高等部での取り組みー	宮城	高橋 誠	特支（高）	知的	自治活動
2012	千葉大会	知的障がい児校の課題別学習における社会科教育ー寝台列車に乗って山陰地方を放しよー	埼玉	土田謙次	特支（高）	知的	地理的内容
2010	名古屋大会	平和教育「沖縄修学旅行から文化祭の劇へ」	埼玉	土田謙次	特支（高）	知的	平和学習
2011	福岡大会	長崎修学旅行の事前学習における社会科教育・平和学習	埼玉	土田謙次	特支（高）	知的	平和学習
2013	大阪大会	関東大震災での朝鮮人虐殺を障害の重い子にどう教えるか？	埼玉	土田謙次	特支（高）	知的	歴史的内容
2012	千葉大会	卒後の豊かな生活を求めてー学校と施設の連携の模索ー	千葉	関根千春	特支（高）	肢体	卒業後の生き方
2011	福岡大会	肢体不自由校における夏休みキャンプの取り組み	東京	竹下忠彦	特支（高）	肢体	体験活動（校外）
2019	埼玉大会	知的特別支援学校における生活単元学習の取り組み～さつまいも栽培奮闘記～	埼玉	津田隆広	特支（小）		
2016	沖縄大会	学校介護職員導入後の学校現場の変化	東京	竹下忠彦	特支（小・中・高）		障がい児教育
2016	沖縄大会	特別支援学校での『社会認識を育てる授業実践』を振り返る（1）	埼玉	土田謙次	特支（小・中・高）		地理・歴史・公民的内容
2017	神奈川大会	特別支援学校での『社会認識を育てる授業実践』を振り返る（2）	埼玉	土田謙次	特支（小・中・高）		障がい児教育における社会認識
2018	京都大会	特別支援学校での『社会認識を育てる授業実践』を振り返る（3）	埼玉	土田謙次	特支（小・中・高）		障がい児教育における社会認識
02年三重大会		猿と人間の食べ物の違い	東京	竹下忠彦	特支（中）		体験活動（校内）
2009	札幌大会	養護学校における国際理解の方法を探ってー中国とモンゴルの楽器の音色を聴いてみようー	長野	嶋崎晴美	特支（小・中）	肢体	体験活動（校内）
2013	大阪大会	聴覚障害者の立場から震災を考えるー関東大震災での朝鮮人虐殺を通してー	兵庫	谷 充弘	特支ろう（高）		障がい者の歴史・人権
2019	埼玉大会	盲学校中学部での社会科の授業ー主権者育成の試みー	岡山	市場美雄	盲学校中学部		地理・歴史・公民的内容
2018	京都大会	「歴史を通じて生き方を考えさせる」～できるだけ身近な問題として興味づけ、自分の生き方を考えさせる試み～	兵庫	谷 充弘	ろう学校（高）		地理・歴史・公民的内容
2010	名古屋大会	障がい児教育分科会の15年の歩み	宮城	高橋 誠			障がい児教育
2012	千葉大会	近代文学と障害者ー正宗白鳥の場合ー	埼玉	小林幸雄			障がい者と文学
2012	千葉大会	障害と文学ー自己表現の可能性について	神奈川	荒井裕樹			障がい者と文学
2011	福岡大会	東日本大震災と障がい児・者の状況（1）	宮城	高橋 誠			障がい者の歴史・人権
2012	千葉大会	東日本大震災と障がい児・者の状況（2）	宮城	高橋 誠			障がい者の歴史・人権
2012	千葉大会	障害者文芸同人誌「しのめ」終刊に立ち会う	東京	竹下忠彦			障がい者の歴史・人権
2013	大阪大会	東日本大震災と障がい児・者の状況（3）	宮城	高橋 誠			障がい者の歴史・人権
2013	大阪大会	光明学校の学童疎開	東京	竹下忠彦			障がい者の歴史・人権
2014	東京・関東大会	東日本大震災と障がい児・者の状況（4）	宮城	高橋 誠			障がい者の歴史・人権
2015	宮城大会	東日本大震災と障がい児・者の状況（5）	宮城	高橋 誠			障がい者の歴史・人権
2015	宮城大会	明治期の視覚障害者の歴史	宮城	中川正人			障がい者の歴史・人権
2017	神奈川大会	障害児学童疎開資料集（全4巻）刊行の取り組み	東京	竹下忠彦			障がい者の歴史・人権
2018	京都大会	光明学校学童疎開記念碑建立の取り組み	東京	竹下忠彦			障がい者の歴史・人権
2019	埼玉大会	絵本の中の障害児・者	神奈川	長塚淑江			障がい者の歴史・人権
2018	京都大会	地域でどう生きるか	埼玉	小林幸雄			卒業後の生き方
04年山形大会		資料館の学芸員を招いた勾玉作り	千葉	関根千春			体験活動（校内）
97年宮城大会		障害児の空間認識に関する指導	宮城	菊池章博			地図・空間認識
2019	埼玉大会	障がい児の社会認識を深めるためにー21分科会のまとめー	埼玉	土田謙次			障がい児教育における社会認識

## IV-4. 歴教協「障がい児教育分科会」の2009年から2019年までの11年間のレポートと歴史地理教育に載ったレポート一覧（氏名順に並べたもの）

年	大会名		所属・名前	校種	学級・知・肢	テーマ
2019	埼玉大会	盲学校中学部での社会科の授業－主権者育成の試み－	岡山 市場美雄	盲学校中学部		地理・歴史・公民的内容
2012	千葉大会	共有ノートで育ちあう子ども・保護者・教師	沖縄 曾賀直哉	1小学校	特支学級	ノートに思いを書く
04年山形大会		資料館の学芸員を招いた勾玉作り	千葉 関根千春			体験活動（校内）
2009	札幌大会	第五福竜丸に出会った生徒たち－特別支援学校高等部の社会科の授業－	千葉 関根千春	特支（高）	肢体	平和学習
2010	名古屋大会	行くぞ、秋田！踊るぞ、ソラン！－特別支援学校のわらび座修学旅行－	千葉 関根千春	特支（高）	肢体	体験活動（校外）
2011	福岡大会	特別支援学校での生徒会活動	千葉 関根千春	特支（高）	肢体	自治活動
2012	千葉大会	卒後の豊かな生活を求めて－学校と施設の連携の模索－	千葉 関根千春	特支（高）	肢体	卒業後の生き方
2009	札幌大会	養護学校における国際理解の方法を探って－中国とモンゴルの楽器の音色を聴いてみよう－	長野 嶋崎晴美	特支（小・中）	肢体	体験活動（校内）
2009	札幌大会	みんなで大きくなろう	三重 田畑美代子	1小学校	普通学級	インクルージョン
2010	名古屋大会	「人数の少ない方が多い方に合わせればいいんや」－特別支援教育の視点を普通学級に－	三重 田畑美代子	1小学校	普通学級	インクルージョン
2012	千葉大会	避難場所はどこ？－PTA作成防災マップの活用－	三重 田畑美代子	1小学校	普通学級	地図・空間認識
2013	大阪大会	みんなで変わろう－普通学級の特別支援教育－	三重 田畑美代子	1小学校	普通学級	インクルージョン
2015	宮城大会	五感を使って地域と出会う（小学3・4年生複式学級での社会科学習）	三重 田畑美代子	1小学校	普通学級	体験活動（地域）
2016	沖縄大会	発達検査から支援へ	三重 田畑美代子	1小学校	普通学級	インクルージョン
2017	神奈川大会	療育活動を取り入れた体育の学習	三重 田畑美代子	1小学校	普通学級	他教科における社会認識
2019	埼玉大会	地域の学校で、共に育つ	三重 田畑美代子	1小学校	普通学級	インクルージョン
2019	埼玉大会	自分の言葉で伝えたい	三重 三谷陽平	1小学校	特支学級	インクルージョン
97年宮城大会		障害児の空間認識に関する指導	宮城 菊池章博			地図・空間認識
2015	宮城大会	がっこうからいえまであるいてみよう（特別支援学級児の空間認識）	宮城 鈴木宏之	1小学校	特支学級	地図・空間認識
2009	札幌大会	障がい児の余暇活動「親子プロ野球観戦」と経済危機	宮城 高橋 誠	1小学校	特支学級	体験活動（地域）
2010	名古屋大会	障がい児教育分科会の15年の歩み	宮城 高橋 誠			障がい児教育
2011	福岡大会	東日本大震災と障がい児・者の状況（1）	宮城 高橋 誠			障がい者の歴史・人権
2012	千葉大会	東日本大震災と障がい児・者の状況（2）	宮城 高橋 誠			障がい者の歴史・人権
2013	大阪大会	未来の主権者を育てる生徒会役員選挙－特別支援学校高等部での取り組み－	宮城 高橋 誠	特支（高）	知的	自治活動
2013	大阪大会	東日本大震災と障がい児・者の状況（3）	宮城 高橋 誠			障がい者の歴史・人権
2014	東京・関東大会	東日本大震災と障がい児・者の状況（4）	宮城 高橋 誠			障がい者の歴史・人権
2015	宮城大会	東日本大震災と障がい児・者の状況（5）	宮城 高橋 誠			障がい者の歴史・人権
歴史地理教育97年9月号		障害児教育における時間と空間の認識	宮城 高橋 誠	1小学校	特支学級	地図・空間認識、時間認識も
2015	宮城大会	明治期の視覚障害者の歴史	宮城 中川正人			障がい者の歴史・人権
2009	札幌大会	たいこと交流	埼玉 小林幸雄	2中学校	特支学級	交流学習
2010	名古屋大会	地域で文化的に生きる	埼玉 小林幸雄	2中学校	特支学級	卒業後の生き方
2011	福岡大会	市民性と障がい児教育－社会認識の教育への接近－	埼玉 小林幸雄	2中学校	特支学級	卒業後の生き方
2012	千葉大会	近代文学と障害者－正宗白鳥の場合－	埼玉 小林幸雄			障がい者と文学
2018	京都大会	地域でどう生きるか	埼玉 小林幸雄			卒業後の生き方
2019	埼玉大会	知的特別支援学校における生活単元学習の取り組み～さつまいも栽培奮闘記～	埼玉 津田隆広	特支（小）		
2010	名古屋大会	学級農園における循環型農業の実践と子どもたちの社会認識	埼玉 春名政弘	2中学校	特支学級	体験活動（校内）
2010	名古屋大会	平和教育「沖繩修学旅行から文化祭の劇へ」	埼玉 土田謙次	特支（高）	知的	平和学習
2011	福岡大会	長崎修学旅行の事前学習における社会科教育－平和学習	埼玉 土田謙次	特支（高）	知的	平和学習
2012	千葉大会	知的障がい児校の課題別学習における社会科教育－寝台列車に乗って山陰地方を放ししょう－	埼玉 土田謙次	特支（高）	知的	地理的内容
2013	大阪大会	関東大震災での朝鮮人虐殺を障害の重い子にどう教えるか？	埼玉 土田謙次	特支（高）	知的	歴史的内容
2014	東京・関東大会	肢体不自由校一般学級での実践「子どもの権利条約と障害者権利条約」	埼玉 土田謙次	特支（高）	肢体	障がい者の歴史・人権
2015	宮城大会	肢体不自由校一般学級での実践「障害者権利条約」や「福島の実状」をどう教えるか？	埼玉 土田謙次	特支（高）	肢体	障がい者の歴史・人権
2016	沖縄大会	特別支援学校での『社会認識を育てる授業実践』を振り返る（1）	埼玉 土田謙次	特支（小・中・高）		地理・歴史・公民的内容
2017	神奈川大会	特別支援学校での『社会認識を育てる授業実践』を振り返る（2）	埼玉 土田謙次	特支（小・中・高）		障がい児教育における社会認識
2018	京都大会	特別支援学校での『社会認識を育てる授業実践』を振り返る（3）	埼玉 土田謙次	特支（小・中・高）		障がい児教育における社会認識
2019	埼玉大会	障がい児の社会認識を深めるために－21分科会のまとめ－	埼玉 土田謙次			障がい児教育における社会認識
2010	名古屋大会	小さな旅甲府・生活単元学習	山梨 向山三樹	1小学校	特支学級	体験活動（校外）
2017	神奈川大会	地域で、普通に生きてほしいな	神奈川 長塚淑江	1小学校	特支学級	卒業後の生き方
2019	埼玉大会	絵本の中の障害児・者	神奈川 長塚淑江			障がい者の歴史・人権
2017	神奈川大会	日本国憲法と障害者の権利保障の歴史を学ぶ	神奈川 溝口一朗	特支（高）	肢体	障がい者の歴史・人権
2012	千葉大会	障害と文学－自己表現の可能性について	神奈川 荒井裕樹			障がい者と文学
2015	宮城大会	普通高校での支援教育の取り組み－クリエイティブスクールの5年間－	神奈川 高木 誠	高校	抜き出し学級？	障がい児教育
2015	宮城大会	学童保育・非常勤体験から感じさせられた「教育現場の貧困と障害児教育」	神奈川 黒川和幸	学童保育		障がい児教育
99年奈良大会		「地図学習からさんぽへ」	大阪 加藤由紀	2中学校	特支学級	地図・空間認識
2015	宮城大会	中学校障害児学級の教科実践－先生今日は社会になったね－	大阪 加藤由紀	2中学校	特支学級	地理・歴史・公民的内容
2009	札幌大会	高等部1年生の文化祭劇の取り組み	東京 竹下忠彦	特支（高）	肢体	体験活動（校内）
2010	名古屋大会	高等部重度障がい児グループの社会見学の取り組み	東京 竹下忠彦	特支（高）	肢体	体験活動（校外）
2011	福岡大会	肢体不自由校における夏休みキャンプの取り組み	東京 竹下忠彦	特支（高）	肢体	体験活動（校外）
2012	千葉大会	障害者文芸同人誌「しのめ」終刊に立ち会う	東京 竹下忠彦			障がい者の歴史・人権
2013	大阪大会	光明学校の学童疎開	東京 竹下忠彦			障がい者の歴史・人権
2014	東京・関東大会	肢体不自由校高等部における買い物学習の取り組み－重度障害児にとっての社会体験とは－	東京 竹下忠彦	特支（高）	肢体	体験活動（校外）
2015	宮城大会	肢体不自由校の準ずる課程の教育課程（類型化）を考える	東京 竹下忠彦	特支		障がい児教育
2016	沖縄大会	学校介護職員導入後の学校現場の変化	東京 竹下忠彦	特支（小・中・高）		障がい児教育
2017	神奈川大会	障害児学童疎開資料集（全4巻）刊行の取り組み	東京 竹下忠彦			障がい者の歴史・人権
02年三重大会		猿と人間の食べ物の違い	東京 竹下忠彦	特支（中）		体験活動（校内）
歴史地理教育96年12月号		障害児学級の戦争学習…ランドセルをしょったじぞうさんをきっかけに	東京 山下洋児	2中学校	特支学級	平和学習
2018	京都大会	被災地（福島）に思いを寄せて～合唱曲『群青』を通して学ぶ（特別支援学級で）～	東京 山下洋児	2中学校	特支学級	障がい者の歴史・人権
2018	京都大会	光明学校学童疎開記念碑建立の取り組み	東京 竹下忠彦			障がい者の歴史・人権
2018	京都大会	「歴史を通じて生き方を考えさせる」～できるだけ身近な問題として興味づけ、自分の生き方を考えさせる試み～	兵庫 谷 充宏	ろう学校（高）		地理・歴史・公民的内容
2013	大阪大会	聴覚障害者の立場から震災を考える－関東大震災での朝鮮人虐殺を通して－	兵庫 谷 充弘	特支ろう（高）		障がい者の歴史・人権



歴史教育者協議会 第68回沖縄大会 分科会FW（於：<sup>なかぐすく</sup>中城）2016年8月

## 障がいのある子どもの『社会認識』を育てるために

発行 : 2020年 6月 18日  
編集 : 障がい児教育分科会世話人  
田畑美代子（三重） 小林幸雄（埼玉）  
土田謙次（埼玉） 竹下忠彦（東京）  
発行責任者 : 竹下忠彦（障がい児教育分科会代表世話人）  
連絡先 : 一般社団法人 歴史教育者協議会  
〒170-0005 東京都豊島区南大塚 2-13-8 千成ビル  
URL <https://syougaijikyoku.jimdofree.com/>